

〈朝倉農学大系〉第9巻『土壌学』1刷正誤表_2024.12.13

ページ	行	誤	正
19	表2.3	斜方輝石	直方(斜方)輝石
41	上から2行目	腐植 (humu)	腐植 (humus)
134	下から7行目	溶質フラックス q_d	溶質フラックス q_{dc}
135	上から9行目	無視できる場合, 溶質のフラックス q_{cc}	無視できる場合, 移流による溶質のフラックス q_{cc}
172	図7.12	バクテリアと糸状菌の活動	バクテリアと放線菌の活動
234	下から3行目	$9.6 \pm 0.5 \text{PgCy}^{-1}$	$9.6 \pm 0.5 \text{PgCy}^{-1}$
239	上から5行目	年間GPPが	年間NPPが
242	上から9行目	<p>余剰Nの多くは脱窒により無害なN_2になるものの、一部はN_2Oとなり地球温暖化や成層圏オゾンの破壊に寄与し、またN溶脱は水圏汚染の主因となる(14.4.2項参照)。</p>	<p>余剰Nの多くは脱窒または溶脱により系外へ移行する。脱窒されたNの多くは無害なN_2になるものの、一部はN_2Oとなり地球温暖化や成層圏オゾンの破壊に寄与する。またN溶脱は水圏汚染の主因となる(14.4節参照)。</p>